平成二十三　中入　国語　［前期］

（その一）　金蘭千里中学校

解答はすべて（その七）の解答用紙に書きなさい。

①　次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

最近、ＴＶをつけるとクイズ番組をやたら目にするようになった。それこそ世界史から娯楽や漢字にまつわるものまでありとあらゆるジャンルのクイズがＴＶという箱の中で飛び交っている。

人類が生きてきた長い歴史を考えると、クイズの種は尽きることがない。［　A　］この手の番組はつくろうと思えばいくらでもつくれるのだろう。

それにしても①クイズ番組がここまで流行るのはなぜだろう。一つには知識や情報といったものがこの社会では非常に値打ちがあるからだろう。

もう一つの理由としては、現代人は「答え」というものを強く欲しているからだと思う。

先行きの見えない時代にあって、これからどう生きていくのがよいのか、何を求めていけばいいのか、何を心の拠りどころにしていけばいいのか、わかりやすい明快な「答え」はどこにもないし、誰かがきちんと答えてくれるわけではない。

そんな漠然とした不安が蔓延する中にあって、クイズは「答え」という手応えを１［さしあたって］与えてくれるものとして無意識に求められているような気がする。

クイズの「答え」なんてその場かぎりのものでしかないのだが、「答え」をたくさん知っておくと、ぼんやりとした不安感もいくらかは薄れるような気持ちになるのだろう。

そう言えば、この社会に氾濫するマニュアルというものも「答え」があらかじめ用意されたものである。

私は**aグタイ**的に今どんな本が売れ筋であるかといったことには２［疎い］。しかし書店なんかにいくと仕事や生き方にまつわるマニュアル的な本がお店の中心を賑わしているのを否が応でも目にするから、この類の本が今、**bオオゼイ**の人に求められているんだろうなということぐらいは少なくともわかる。

面接で成功するためのマニュアル、仕事が上手くいくためのマニュアル、話し方が上手になるためのマニュアル、さまざまなマニュアルがあるようだが、これも仕事や生き方における「答え」の一つである。こうしたものを見るにつけ、今の人は「答え」というものに強くとらわれているんだなということを感じてしまう。

［　B　］、そもそも生きていることに「答え」などあるのだろうか。哲学者などが「人生の意味とは何か？」みたいなことを問いかけたりするが、そんなものに意味などはじめからないのだ。

３［身も蓋もない］言い方だが、意味もなければ答えもないからこそ人生は面白いと思う。「答え」というのは一つの目的だからそれ以上前には進めない。だから人生の「答え」を仮に見つけたとしたら、そこでおしまいではないか。

私自身はわからないことがあっても、それを本で調べたり、知識のありそうな人に聞いたりということはしない。はっきりとわからなくても、だいたいこんなところだなというつかみ方をする。

その状態で放っておくと、いつの間にか自然とわかってくることもある。わからないからといって気持ちが落ち着かなくなるようなことはなく、むしろその状態を［　X　］ような感覚が私にはある。

わかるとは「分かる」と書く。「分かる」とはその対象となるものをある形に分けて、理解できるようにすることである。しかし、元々は人生は「分けられない」＝「わからない」ものである。そんな人生をはっきりとした形に分けようとすると、それは物語のような形にするしかないだろう。

②どんなに科学文明が発達しても、人が生きるとは何なのか、はっきりとした「答え」は出てこない。どんなに**cフクザツ**な物理や数学の方程式を使っても、どれほど高度に科学技術を進歩させても、人が生きるということは**dエイエン**に謎だ。

人だけではない。無数の動植物が生きている地球があり、さらにそれを包み込む宇宙があるということは、それ自体ひたすらわからないことだらけである。

動物も植物も地球も月も太陽も、彼らは「答え」を求めない。「分からない」という状況にあって「迷い」を起こすのは人間だけ。

でも、「分からない」というのは、本当に魅力的なことだし、楽しいことだ。異性に惹かれるのも

★

受検番号	

平成二十三　中入　国語　［前期］　（その二）　金蘭千里中学校

本質的に相手がわからないからである。「分からない」という状態は生きることを豊かにするものなのだ。だから、もっと「分からない」ということは大事にすればいいと思う。「分からない」ことに耐えられなくなって、人生の「答え」を**eアンイ**に求めることはないのだ。

（桜井章一『努力しない生き方』一部改めたところがある）

（一）波線部**a**～**e**のカタカナを漢字に改めなさい。

a　グタイ　　**b**　オオゼイ　　**c**　フクザツ　　**d**　エイエン　　**e**　アンイ

（二）［A］、［B］に入るもっとも適切な語をそれぞれ次のア～カの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　もっとも　　イ　だが　　ウ　たとえば　　エ　だから　　オ　さて　　カ　いっぽう

（三）1［　　］～3［　　］の語の本文における意味としてもっとも適切なものをそれぞれ次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

1「さしあたって」

ア　適切に　　イ　他に先んじて　　ウ　とりあえず　　エ　幸いなことに

2「疎い」

ア　予測できない　　イ　よく知らない　　ウ　話せない　　エ　関わっていない

3「身も蓋もない」

ア　内容が薄くて、丁寧でない　　イ　幼稚で、難しくない

ウ　露骨すぎて、味わいがない　　エ　あいまいで、手応えのない

（四）傍線部①「クイズ番組がここまで流行るのはなぜだろう」について、その理由を説明した次の文の空欄に入る適切な語句を答えなさい。ただし、［ア］については五字で本文から抜き出し、［イ］についてはあてはまる表現を指定された条件に即して考えて書きなさい（句読点を含む）。

＊クイズで得られる［ア（五字）］が現代社会では価値があり、明快かつたくさんの「答え」という手応えを提供するクイズは、［イ（「時代」と「不安」という語を必ず用いて四十字以内で）］から。

（五）本文において、「クイズ」と特徴が似ているとされるものを五字で抜き出しなさい。

（六）［X］に入る適切な動詞（三字）を、本文に用いられている言葉を参考にして答えなさい。

（七）傍線部②「どんなに科学文明が発達しても、人が生きるとは何なのか、はっきりとした『答え』は出てこない」について、その理由を説明した次の文の［　　］に入る適切な語句を、二十五字以内で本文から抜き出しなさい（句読点を含む）。

＊科学文明を支える物理や数学などの科学は、［　　］する学問だから。

（八）本文の内容を説明した次の文章の空欄に入る語句を答えなさい。ただし、［ア］、［イ］はそれぞれ指定された字数で本文から抜き出し、［ウ］は指定された字数で考えて書きなさい（句読点を含む）。

＊現代人は仕事や生き方における［ア（二字）］を強く求めている。しかし、そもそも人生にそのようなものはない。したがって、この「［イ（五字）］」という状態に不安を抱く必要はなく、［イ（五字）］ことがあったら、［ウ（四十字以内）］する姿勢が大切である。

★★

受検番号	

平成二十三　中入　国語　［前期］　（その二）　金蘭千里中学校

② 「あかり」は「とうさん」と二人で暮らしている小学校三年生の女の子である。母親がいないため、家には週二回お手伝いさんの仲井さんが通ってきてくれている。次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

とうさんの絵葉書にたいして、山名さんは返事をくれなかった。そのかわりに、自分が返事になった。つまり、とつぜん訪ねてきてくれたのだ。夏の日ざしがあんまり強いので、庭全体が白いろに燃えたつように見える土曜のひるまえのことだった。タマテバコも、さすがにぐったりして、くたびれた雑巾みたいになって眠っており、山名さんがすぐ前に立つまで気づかなかった。

山名さんは、小さな、けれどよくとおる声でごめんくださいを二度くり返し、タマテバコが気づき、半分寝ぼけながらほえたてた。画室にいたとうさんも、それでやっと表のａケハイに気がついた。この暑いさなかにいったいだれやろか……と、1いぶかりながら玄関に出たとうさんの目に、濃い青の大きな麦わら帽子がとびこんだ。とても大きいので、それをかぶっている人がかわいく見えた。頭に海をかぶっているみたいで、2すこぶる涼し気に見えた。そして、帽子に埋もれたかっこうで、よく見えない顔があげられたとき、とうさんは思わず、

―山名さんやンかあ。

①少年の声をあげていた。

―おじゃまやありません？

山名さんは、少しかたい声でたずねた。

―いいや大丈夫。

とうさんは、まだ少年の声ではずんで答えた。山名さんは右手の白い籐の鞄をもちあげて言った。泳ぎにいかはれしません？　今年は仕事のつごうで伊豆へ帰る時間はないンですけど、なんだか、むやみに泳ぎたくなったンです、それも、ごいっしょに……。

おしまいのところは早口になったので、もう少しでとうさんは聞き逃すところだった。え？　という表情になりながら、とうさんはできるだけおちついて（②年相応の口調にととのえて）言った。それやったら、どこぞ近くのプールにでも？　山名さんはうなずき、それも日焼けせん室内プールがいいんですけど……と答えた。ははあ、日焼けしては困るんやな、泳ぎにでかけたことは［　※　］なンやな……と、とうさんは気がついた。なるほど、［　※　］にごいっしょか。

とうさんは以前一度あかりをつれて泳ぎにいったことのある洛北の室内プールのことを思いうかべた。植物園のすぐ近くやし、ちょっとおいしい洋食屋さん（とうさんはレストランのことをすぐそう言ってしまって、としやなぁ、昔風やなあと言われて、3くさるのだ）も何軒かあるしな、ちょうどええやないか……。（とうさんは、中学校のころ水泳部にいたので、泳ぐとなるとおなかがすく、帰りには何かたべたくなるもンや―と考える習慣になっていた。昔はタイやき屋だったが、いまはそんなふうなところを考えてしまうのだ）あとは、あかりの帰るのを待つだけや、ｂタンシュク授業やさかい、そろそろや。

そこまで、おなかの中で暗算する（？）と、ま、あがって下さいと山名さんを誘った。山名さんは画室に入りたがった。いま、どんな仕事をしているか見たがった。何だか急に思い切ったように、とうさんのことをいろいろ知りたがっているケハイがあった。

いまなら、絵本の仕事にいきづまっているところを見られてしまう。それよりも、だいたいが仕事の途中を人に見せることはしないとうさんだったが、このときはすぐ見せる気になった。山名さんの、③これまでになかった積極性みたいなものをかぎ取ったからかもしれない。とにかく、むしろ自分からすすんで、「壁」に当たっているところを山名さんに見てもらいたいと思ったのだ。

とうさんは黙って、出来上がっていた分を次々に手渡していった。山名さんも唇をきゅっとひきしめて、ちょっとこわいような表情になって見ていったが、目からだんだんきつさが消えていった。そしておしまいの一枚を見終わったときの山名さんの瞳の輝きを見ると、

（なんや、自分ひとりであんなにくよくよするほどのものでもなかったンや……）

と安心してしまったほどだ。山名さんは、ひとこと感想をのべてくれた。

―この子の（山名さんはタマテバコのことを犬と呼ばなかった。ごく自然に「子」と言った）気もち

★★★

受検番号	

平成二十三　中入　国語　［前期］　（その四）　金蘭千里中学校

が―、不安のゆらめきが、いつも対比して描いてある木の、森の大きさと色彩にようでて、やっぱり思っていたよりもずっと新しい世界を拓きはりましたわ。仕上がりがほんまにたのしみ……。

見せてよかった―と、とうさんはしんからうれしかった。④目の前の画稿の中のタマテバコが小さくほえ、とことこと歩きだしたように思えた。

（うごいてくれるぞ。これでやっと次にいけるやンか……）

とうさんは思わず、

―よかったぁ。

A　画家がほめられたみたいな声をあげてしまったが、それが少しも恥ずかしくなかった。まるで初めてひとに仕事をみとめられたときのようなうれしさがあったからだ。山名さんだからすなおにそうできたのか―と思うと、われながらおかしかったが、そのことがまた、胸のどこかをきゅんとしめつけた。とうさんはある言葉を口にだそうとして、初めてのように、まっすぐに山名さんの目を見つめた。そのとき、玄関にあかりの声がした。

―お客さん？

たずねながらあがってきた。玄関の靴に気がついたンやな……。とうさんはそう思い、すぐに山名さんの名を口にしかけたのを、山名さんが片目をつむって抑えた。とうさんは画室の戸を押さえて、

―だれやと思う？

かくれんぼしているときみたいに、いたずらっぽくきいた。素早くケハイを察したあかりは、むりに戸をあけようとしないで、立ち止まり、思案しているふうだった。仲井さん―と言うやろな……。とっさにとうさんはそう思い、そう言われてしまったら、⑤さっき口にしたかった言葉は言えないなあ……と思ってどきんとした。こんなあてっこは止すべきだったと思ったのだ。山名さんを傷つけてしまうことになるやないか……。

あかりはしばらく答えなかった。それから、うん、とうなずくようすがあって、山名さんやろ……とあっさりあてててくれた。ほっとしながら戸をあけたとうさんは、よう分かったなあ……と声にだした。うん、仲井さんの靴やなかったし、もうちょっと小ぶりなものやったさかい、はき手を考えたら分かってきたンや。あかり名探偵は「ｃスイリ」のほどを説明してくれた。

―おじゃましてます。

山名さんは、初対面みたいにかしこまった声で挨拶した。あかりは、おやという表情になった。それまでのおつきあいはなかったみたいな挨拶の仕方やないのン……という気もちがしたからだ。そしてすぐに、

（もしかしたら、これから始める気もちできやはったからやな……）

と、敏感に「スイリ」した。とうさんにもまだ分かっていない山名さんの「決心」をみごとに探りあてた「第　B　感」で、こちらの「スイリ」の方がずっと名探偵ぶりをｄパッキしたものだったが、とうさんはまだそこのところに気がついていなかった。⑥燈台もと暗し……。

あかり名探偵は、とうさんの方へ「ｅカンサツ」の目をむけた。とうさんは生き生きした目をしていた。

―タマテバコがうごいたン？

ふたりだけの暗号を言うようにあかりがきいた。とうさんは、え？　という顔になったが、⑦ああ、おかげさんでなあ……と、妙なことを言った。おかげさん？　こんどはあかり名探偵が、え？　の目つきになった。それから、山名さんの前にひろげられた画稿を見ると、そうかあ、やっぱり……という顔つきになった。それから、ませた口調で冷やかすように、

―なにか⑧いいことあったよな……。

と言ってやった。

するととうさんはかんちがいして、⑨いいことがあるいうたら、おまえにもやぞ……といきごんで、プール行きのことを告げた。あかりは一瞬きょとんとなった。とうさんと山名さんとを結びつける「スイリ」の糸をぷちんと切られたみたいな気がした。

とうさんはまたおや？　という表情になり、

★★★★

受検番号	

平成二十三　中入　国語　［前期］

（その五）　金蘭千里中学校

―泳ぎに行きたかったンとちがうンか。とうさんのぐあいがよくないので、遠慮してたンとちがうンか。―と、たたみかけるようにたずねた。

―……そらそやったけど……。

あかりは、何かはぐらかされた気分で口ごもった。

―そやったら、支度しといで。

はあい……。あかりはできるだけいい声で返事をして自分の部屋へとんでいった。

（今江祥智『優しさごっこ』一部改めたところがある）

（一）波線部a～eのカタカナを漢字に改めなさい。

a　ケハイ　　b　タンシュク　　c　スイリ　　d　ハッキ　　e　カンサツ

（二）1［　　］～3［　　］の語の本文における意味としてもっとも適切なものをそれぞれ次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

1「いぶかりながら」

ア　おそるおそる　　イ　けげんな顔で　　ウ　ためらいがちに　　エ　やきもきして　　オ　しぶしぶと

2「すこぶる」

ア　あたかも　　イ　なかなか　　ウ　それなりに　　エ　はなはだしく　　オ　思いのほか

3「くさる」

ア　がっかりしてやる気を失う　　イ　悲しみで胸がふさがる　　ウ　引け目を感じて小さくなる

エ　よい方法がなくて困りはてる　　オ　腹が立ってむかむかする

（三）傍線部①「少年の声をあげていた」「とうさん」が、傍線部②「年相応な口調にととのえ」たのはなぜか、その理由としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　山名さんの突然の訪問に驚いたが、山名さんがやって来た理由をおちついて考える必要があったから。

イ　この暑いさなかに山名さんが来てくれたことに感心したが、突然泳ぎに誘われてとまどったから。

ウ　麦わら帽子をかぶった山名さんの姿に胸がときめいたが、すぐにプールの話題に気をとられたから。

エ　山名さんの突然の訪問を喜んだが、山名さんが切り出した言葉の意味を冷静に把握しようとしたから。

オ　あかりがいない時に山名さんが来て気が動転したが、それを悟られないようにしようとしたから。

（四）［※］にはどんな言葉が適切か、自分で考えて五字以内で答えなさい（句読点を含む）。

（五）［A］、［B］に入るもっとも適切な語をそれぞれア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

［A］〔ア　日曜　　イ　月曜　　ウ　水曜　　エ　金曜　　オ　土曜〕

［B］〔ア　一　　イ　二　　ウ　三　　エ　五　　オ　六〕

（六）傍線部③「これまでになかった積極性みたいなもの」とはどのような様子をいうのか、それを説明した次の文の（　　）に本文から適切な箇所を二十字以内で抜き出しなさい（句読点を含む）。

＊山名さんが（　　）様子。

★★★★★

受検番号	

平成二十三　中入　国語　［前期］　（その六）　金蘭千里中学校

（七）傍線部④「目の前の画稿の中のタマテバコが小さくほえ、とことこと歩きだしたように思えた」のはなぜか、その理由としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　今まで山名さんの気持ちをはかりかねていたが、山名さんが好意を抱いていることが感じられたから。

イ　山名さんにどんな感想を言われるかびくびくしていたが、それが取り越し苦労だったとわかったから。

ウ　絵本の仕事の「壁」に当たっていたが、山名さんの感想を聞くことでそれが取り除かれたから。

エ　山名さんが画稿のタマテバコをほめてくれたので、山名さんのことをあらためて見直したから。

オ　山名さんが励ましてくれたおかげで、絵本の仕事にいきづまっていたのも気のせいだと気づいたから。

（八）傍線部⑤「さっき口にしたかった言葉」とあるが、それはだれに何をしてもらおうという言葉か、「とうさん」のセリフとして二十字以内で書きなさい（句読点を含む）。

（九）傍線部⑥「燈台もと暗し」とはここではどういうことをたとえているのか、その内容を六十五字以内で答えなさい（句読点を含む）。

（十）傍線部⑦「ああ、おかげさんでなあ……と、妙なことを言った。」とあるが、この言葉が「妙なこと」となるのはなぜか、その理由としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　「とうさん」は山名さんの存在をあかりが受け入れてくれたと思って感謝の言葉を述べたが、あかりにはそういうつもりは全然なかったから。

イ　あかりは暑さでぐったりしていたタマテバコのことを話題にしたつもりだったが、「とうさん」は画稿の中のタマテバコのことだとかんちがいしたから。

ウ　二人にしか通じないものの言い方をしたあかりに対して、「とうさん」は山名さんにもわかるような返事をしようとしてかえっておかしくなったから。

エ　あかりは「とうさん」が悩みから解放されたとばかり思っていたが、「とうさん」は画稿のことをいまだに気にしていて返事が上の空になったから。

オ　「とうさん」が仕事のいきづまりから抜け出せたのはあかりのおかげではないうえに、娘に対していやに他人行儀なものの言い方をしたから。

（十一）傍線部⑧、⑨の「いいこと」とはどのような内容か、それぞれ二十字程度で答えなさい（句読点を含む）。

★★★★★★

受検番号	

令和六年度中学校　（その七）　［選択］　国語　入試　二十二分　二十二点

①

（一）	a	
	b	
	c	
	d	
	e	
（二）	A	
	B	
（三）	1	
	2	
	3	
（四）	ア	
	イ	
（五）		
（六）		
（七）		
（八）	ア	
	イ	
	ウ	

②

（一）	a	
	b	
	c	
	d	
	e	
（二）	1	
	2	
	3	
（三）		
（四）		
（五）	A	
	B	
（六）		
（七）		
（八）		
（九）		
（十）		
（十一）	⑧	
	⑨	

平成二十三　中入　国語　［前期］　（その八）　金蘭千里中学校

一　解答（６０点）

（一）ａ具体　ｂ大勢　ｃ複雑　ｄ永遠　ｅ安易　　１点×５

（二）Ａエ　Ｂイ　　３点×２

（三）１ウ　２イ　３ウ　　２点×３

（四）ア　知識や情報　　４点

イ　先行きの見えない時代にあって、ぼんやりとした不安感をやわらげてくれる（３４字）　８点

（五）マニュアル　　５点

（六）楽しむ（求める）　　５点

（七）対象となるものをある形に分けて、理解できるように（二十四字）　　５点

（八）ア　答え（意味）　　４点

イ　分からない（わからない）　　４点

ウ　だいたいこんなところだなというつかみ方をして、わからないということを大事に（３７字）　８点

（だいたいこんなところだなというつかみ方をして、わからない状態を楽しむように）

二　解答（６０点）

（一）ａ　気配　ｂ　短縮　ｃ　推理　ｄ　発揮　ｅ　観察　　１点×５

（二）１イ　２　エ　３　ア　　２点×３

（三）エ　　４点

（四）ないしょ、（秘密）　　４点

（五）Ａ　ア　Ｂ　オ　　２点×２

（六）（山名さんが）とうさんのことをいろいろ知りたがっている（様子）　　４点

（七）ウ　　４点

（八）山名さん、ぼくとけっこんして下さい。　　５点

（九）山名さんが「とうさん」と結婚する決心でいるのを、あかりよりも山名さんに近い関係である「とうさん」の方が気がついていないということ。（６５字）　１２点

（十）オ　　４点

（十一）⑧「とうさん」が山名さんとさいこんすること。（２１字）　　４点

⑨「とうさん」があかりをプールにつれていくこと。（２２字）　　４点

平成二十三　中入　国語　［後期］　（その一）　金蘭千里中学校

解答はすべて（その八）の解答用紙に書きなさい。

①　大学の一年生である主人公トモは、小さな頃から、かわいく清潔で女の子らしいお姉ちゃんにあこがれ、そのまねばかりをしている女の子だったが、高校三年生の時に起こったある事件をきっかけにお姉ちゃんの生き方に疑問を感じ、お姉ちゃんのまねをやめて、自分なりの生き方を探し始める。その第一歩として、お姉ちゃんは「不潔だ」と毛嫌いしていたが自分は昔から好きだった動物の研究をする動物学科へと進学し、女らしさから一番遠いと自分が感じていた空手道部へと入部する。次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

その夜、十二時過ぎに、久しぶりに山ちゃんから電話がかかってきた。山ちゃんは中学の頃からおとなしくて、どちらかと言うと引っ込み**アじあん**で人見知りをするタイプだったけれど、話すと面白くて優しい子だった。国立大学の文学部に進学した今でも、どうやら変わっていないらしい。

「ちゃんと友達できた？」

「できたよ、失礼な」

山ちゃんは**イかろ**やかに笑い、そんな声を聞きながら私も安心する。四月の中旬くらいに電話したときは、なかなか友達ができないんだと暗い声で話していたから。

「今日はどうかしたの？」

「……ううん、別に。ただなんとなくだよ。それよりトモは最近どうなの？　空手がんばってる？　授業どう？」

「がんばってるよー、勉強はあまりしてないよー。あ、でもこないだ食肉センターに見学に行ったんだ」

「食肉センター？」

「牛と豚の屠畜**ウげんば**だよ。授業の一環で行ったの」

「屠畜かあ。え、牛とか豚とか目の前で殺したり、皮をはいだり、内臓を取り出したりしてたの？」

「目の前では見られなかったよ。そういうのはビデオで見て、直接見たのは、内臓がベルトコンベヤーで運ばれてくところとか……でもそれもガラス越しだった。なんかほんと、工場って感じだったよ」

「へー、そうなんだ。内臓とか、気持ち悪くなかった？」

「別に気持ち悪くはなかったけど、いろいろ考えはしたよ。見た時は、なんでここまでしてお肉食べるんだろう、①もう食べるのやめちゃえばいいのにって思ったし、かわいそうとも感じたけど」

「そっかー。でも私、お肉好きだしな……」

山ちゃんはそのあと真剣に、お肉が食べられなくなったら寂しいとつぶやき、私はそれを聞いてなんだか安心した。

②山ちゃんのそういうところが好きだ。

「そうなんだよね。もう今さらお肉食べるのを全世界の人がやめることなんて不可能だし、もし一部の人が食べなくても、毎日あの食肉センターではお肉を**エしゅっか**するわけだよ。滞りなく。だからさ、③私たちはそのお肉や内臓や皮まで、全部有効活用するしかないんじゃないかな」

「そうだねえ……ほんとそうだよね！　すごいねトモ、いろいろ考えてるんだ」

感心したような山ちゃんの声を聞きながら、携帯を持つ手とは逆の手でかばんから（注１）道着を引っ張り出し、少し笑う。

「そう思えるようになったのもね、部活の先輩のおかげなんだよ。さっき私が言ったのも、主将に言われた言葉の**Aけ売り**みたいなもんだし。でも主将にそう言われて、ほんとうにそうだな、私たちができることってそんくらいしかないんだなって、そう思ったの」

「へー……でもすごいよ。それに、④そういうこと（注２）部活の先輩と話したりするのって、なんだかいいね。（注３）キャンパスライフって感じ」

山ちゃんの言葉にそれどんな感じだよーと笑いながら、道着を結んでいた帯をほどく。山ちゃんはしきりにいいねいいねと繰り返し、それを聞いて私も悪い気はしなかった。

山ちゃんは、うちの学校はまあ普通だよ、みんなまじめだし、（注４）サークルもそこそこ活動してるけど、トモのところほど楽しくはないと思う、でも興味のあることが学べるからそういう授業は楽

受検番号

平成二十三　中入　国語　［後期］　（その二）　金蘭千里中学校

しい、それにしてもトモは楽しそうでうらやましいな、というようなことをいつものペースで話した。ゆっくりとした、偉ぶらないおごらないねたまない、話しているだけで落ち着く山ちゃん独特の空気。その話を聞きながら、なんだ、山ちゃんだって十分楽しそうじゃないかと思う。よかったよかった、【　＊　】もできたみたいだし、と思いながらさらにお互いの近況を報告しあい、電話を切った。

気付いてみれば一時間ほど経っていて、電話を切ったあともなんだかテンションが高かった。幸せな気持ちで携帯を充電器に挿し、道着を洗濯機に入れながら今日のことを振り返る。大学生にもなって室内でキャッチボールしたり、その挙げ句コップを割ったりしないだろう、普通！

いい部活に入った。いい人たちに出会った。いい学校に通っている。偉大なことを学んでいる。そう思ったらふたたび笑いがこぼれて、まだ始まったばかりだけれど、これからの大学生活が楽しみで仕方がなかった。

お姉ちゃんは大学に入る前も入ったあとも、「大学は男の子と出会う場所であって、楽しむ場所じゃないわ」と**オ****めいげん言**していた。授業なんて楽しくないし、（注５）一般教養なんて地獄よ。大教室でわざわざマイク越しに教授の**Ｂ****寝言**聞かなきゃならないなんて馬鹿みたい。まだ爪のお手入れでもしていた方が、何倍もマシな時間が過ごせるわ。大学なんてお金払って時間つぶしに行ってるようなものよ。大体私、あの学校で学びたいことなんて特にないしね。今の世の中、高卒じゃ話にならないからそこそこの大学に入っただけ。それに、馬鹿な学校の男とかその友達とか、捕まえても話にならないでしょう……。

コップを割ったあともさらにキャッチボールを続けようとした先輩たちを思い出して、また笑いがこみ上げ、⑤見たかお姉ちゃん、と心の中で呟いた。私はお姉ちゃんが散々信じられないと言って反対した大学に入って、こんなに楽しい思いをしている。大学は勉強する場所であり、部活をする場所であり、馬鹿なことをやる場所なんだ。ぶっ倒れるほど全力で、この四年間を楽しんでやる。化粧崩れを気にして、人前では思いっきり笑えないお姉ちゃんみたいに、つまらない人生を歩むつもりなんてさらさらないよ。

女らしさなんて、くそくらえ。

（片川優子『動物学科空手道部１年高田トモ』一部改めたところがある）

（注１）道着…ここでは空手道着のこと。空手をするときに着る衣服。　（注２）部活…学校のクラブ活動。
（注３）キャンパスライフ…大学での学生生活。　（注４）サークル…大学におけるクラブなどのこと。
（注５）一般教養…大学で専門教育に入る前に受ける、広く様々なことを学ぶ授業。

（一）**太字部**ア～オのひらがなを漢字に改めなさい。

ア　（引っ込み）じあん　　イ　かろ（やかに）　　ウ　（屠畜）げんば　　エ　しゅっか　　オ　めいげん（し）

（二）**太字部**Ａ「受け売り」、Ｂ「寝言」の本文における意味として最も適切なものを、次のア～オの中からそれぞれ一つ選び記号で答えなさい。

Ａ「受け売り」

ア　他人の言ったことを全くそのまま繰り返して言うこと。
イ　他人の言ったことを自分の意見のように言うこと。
ウ　他人の言ったことに少し自分の意見を付け加えること。
エ　他人の言ったことから要点を抜き出して言うこと。
オ　他人の言ったことは聞かず自分の意見だけを言うこと。

Ｂ「寝言」

ア　普通の人にはわかりにくい学問的な言葉。
イ　寝ているときにしゃべっている言葉。
ウ　何を言っているのか分からない言葉。
エ　声が小さすぎてよく聞き取れない言葉。
オ　目をつぶりながらぶつぶつと言う言葉。

（三）【　＊　】に入る適切な語句を、文中から漢字二字で抜き出しなさい。

受検番号

平成二十三　中入　国語　［後期］　（その二）　金蘭千里中学校

（四）傍線部①「もう食べるのやめちゃえばいいのにって思った」とあるが、主人公トモはなぜこのようなことを言っているのか、二十字程度で説明しなさい（句読点を含む）。

（五）傍線部②「山ちゃんのそういうところが好きだ」とあるが、どのようなところが好きなのか、次のア～オの中から最も適切なものを一つ選び記号で答えなさい。

ア　何事でも真剣に考えるばかりでなく、「すごいね」と相手を素直に評価するところ。
イ　お肉が食べられなくなると寂しいと、何も考えずに自分の気持ちばかりを言うところ。
ウ　他人の意見を尊重し同意するだけでなく、少しおもしろいことを付け加えるところ。
エ　安易に他人の意見に同調するのではなく、自分なりに物事をじっくりと考えるところ。
オ　おとなしく控え目だが、話をしてみると意外にもおもしろくて優しいところ。

（六）傍線部③「私たちはそのお肉や内臓や皮まで、全部有効活用するしかないんじゃないかな」とあるが、どういうことのためにこのようにすべきだと言っているのか、「自分たち」「命」「むだ」を使って三十字以内で説明しなさい（句読点を含む）。

（七）傍線部④「そういうこと」とはどういうことか、次のア～オの中から最も適切なものを一つ選び記号で答えなさい。

ア　大学生である自分たちにできることはごく限られたことしかないということ。
イ　お肉ばかりでなく皮や内臓も全部有効活用しなければならないということ。
ウ　動物をお肉にして食べるのはかわいそうであるが、仕方がないということ。
エ　勉強の仕方や部活に関することだけでなく個人的な悩みや苦しみもということ。
オ　普段はあまり気付かないが、実は我々の生活の根幹にかかわる重要なこと。

（八）お姉ちゃんにとっての大学とはどのような場所なのか、次のア～オの中から適切なものを二つ選び記号で答えなさい。

ア　爪のお手入れをするための場所。
イ　恋人を探しに行くための場所。
ウ　友人たちと楽しく過ごす場所。
エ　自分の好きなことだけを学ぶ場所。
オ　学歴を手に入れるための場所。

（九）主人公トモにとって大学とはどのような場所なのか、そのことについて述べている一文を探し、最初の五字を書きなさい（句読点を含む）。

（十）傍線部⑤「見たかお姉ちゃん、と心の中で呟いた」とあるが、このように呟いたのはなぜか、次のア～オの中から最も適切なものを一つ選び記号で答えなさい。

ア　お姉ちゃんが大学で楽しむよりも、自分の方が何倍も楽しんでいるから。
イ　お姉ちゃんから見れば何の価値もない大学で、自分は有意義に楽しんでいるから。
ウ　お姉ちゃんが出会った男の子よりも、たくさんの先輩や友達に出会えたから。
エ　お姉ちゃんは好きなことを学ぶだけだが、自分は授業内容を話し合ったりできるから。
オ　お姉ちゃんは人前で思いっきり笑えないが、自分は思いっきり笑えるから。

受検番号

平成二十三　中入　国語　「後期」　（その四）　金蘭千里中学校

② 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

X星野リゾートは全国でさまざまなホテルや旅館の再生を手がけている。そのさきがけになったのが、山梨県北杜市にあるリゾートホテル「リゾナーレ」だ。

星野リゾート社長の星野佳路は一九九〇年代中ごろ、低迷していた長野県軽井沢町にある自社ホテル・旅館の立て直しに成功した。そして一連のアかいかくで培ったノウハウを生かして他社のリゾート再生に乗り出した。

リゾナーレはもともと会員制ホテルとして営業を開始した。イタリアの有名建築家がデザインを手がけ、施設全般に高級感が漂っている。首都圏からそれほど遠くないうえ、敷地内から八ケ岳などの山々を望むことができるなどイりっちも優れている。その魅力を生かして若いカップルを主要なターゲットに据えていた。しかし、バブル経済の崩壊でプランが狂い始めるとやがて経営が行きづまった。

星野リゾートは二〇〇一年、リゾナーレの経営を引き継いだ。社長の星野は経営をゼロベースで再構築するため「コンセプトづくり」からスタートした。これは「どんな【　①　】に対して、どんな【　②　】を提供するか」を明確にする作業で、星野リゾートが旅館を再生する時必ず行う重要なステップである。

星野はコンセプトを固めるために、外部の調査会社を使いリゾナーレの顧客分析を進めた。同時に星野はコンセプトづくりの担い手となるコンセプト委員会のメンバーを社内から公募した。

リゾナーレで現在総支配人をウつとめる桜井潤はこの時③自ら進んで加わったメンバーの一人だった。「旧経営陣の時は、上から命令され、それに従うだけだった。仕事はやりがいのないものだった。それが星野リゾートになった途端、『自分たちでコンセプトを作ろう』と大きく変わった。何だかおもしろそうだと思った。だから二〇代だった自分も迷わず参加した」

星野リゾートのコンセプト委員会は、出席する誰もが、どんなことでも、言いたいことを言える場である。その雰囲気は旧経営時代とは大きく違った。委員会のメンバーは「リゾナーレを再生しよう」と意気込んでいた。それまでと異なる「自由な議論」に最初のうちは戸惑っていたが、会合に欠かさず出席した星野が、スタッフの話しやすい雰囲気を作った。なかなか話せなかったスタッフも少しずつ自分の意見を口にするようになった。いったん意見が出るようになると、スタッフの意識が変わるスピードは速かった。

《　a　》をきったように意見が飛び交い始め、やがて委員会は夜中まで続くほど熱を帯びていった。

コンセプトづくりの最重要事項が「メーンターゲットの決定」である。これからどんなお客様をターゲットにするのかを決め、そこから詳細なサービスプランを検討する。

外部の調査会社を活用して収集したデータから、メーンターゲットについて二つのプランが浮上した。

一つは、施設の持つ高級感を生かして若いカップルの獲得を目指すプランである。このプランは旧経営陣が描いた戦略を基本的に継承するものであり、ターゲットの変更はない。

もう一つは、就学前などの子供がいるファミリーをターゲットにする新しいプランである。リゾナーレは従来、ファミリー層をターゲットにしていなかった。しかしデータを分析する中で、ファミリーはカップルと同じくらい可能性のあるプランとして浮上した。

メンバーはさまざまな角度から二つのプランの持つ可能性について比較しながら話し合いを進めた。星野は何よりも議論をじっくり聞くエしせいを取った。メンバーが自分たちでコンセプトを考えるための手助け役に徹していた。「こういうコンセプトでいけ」と指示することはなかった。あくまで主役はリゾナーレのスタッフ自身だった。

議論を聞き続けた星野はやがて、あることに気づいた。ファミリー層をターゲットにするプランを語る時の方が、メンバーの表情が明らかに【　④　】しているのである。

リゾナーレはそれまでカップルをターゲットとしてきたが、うまくいかない歴史が重くのしかかっていた。スタッフの多くは「カップルをターゲットにするのは限界だ」と感じていた。

一方、ファミリー客は従来、ターゲットにしていなかった。そのためファミリー客の増加

受検番号

平成二十三　中入　国語　［後期］　（その五）　金蘭千里中学校

に違和感を覚えていた。それでもファミリー客はリゾナーレを気に入り、その数は着実に増えていた。Ａ**リピート客**になる人が少なくなかった。多くのスタッフにとって、いつの間にかファミリー客は感覚的に非常に親しみのあるお客様になっていた。スタッフの多くは詳細な調査によって、ファミリー客が大きな可能性を持つことを知った。そして、ターゲットを改めて考える時、ファミリーをメーンターゲットにすることに大きな魅力を感じた。

データを前に議論が続いた。カップルとファミリーはそれぞれ可能性があるように見えた。やがて議論が進むうちに、従来通り、カップルをターゲットにする案の方がやや**オゆうい**になってきたようにも見えた。カップルを推す人は「データでもきちんと裏付けられているのだから、これまで通りでよいのではないか」と主張した。

しかし、多くのメンバーの気持ちは違った。ファミリー客の開拓に挑戦しようと頑張り続けた。星野は議論の流れをサポートする中で、メンバーの多くが、ファミリーをメーンターゲットにする案に共感していることを確信した。星野はスタッフの意識を大事にしたいと思った。『自分たちはこうなりたい』と思っているからこそ、そこへ向かおうとする力も生まれてくる。だから、スタッフの共感は非常に重要だ」

スタッフの気持ちが最終的な決め手になった。委員会は結局、メーンターゲットを「ファミリー」にすることに決めた。

「ファミリー向け」とうたうホテルは、ほかにもたくさんある。リゾナーレの再生に当たって、ファミリー向けに≪　ｂ　≫を切るならば、**カどくじ**の魅力をアピールする必要がある。ファミリー客を引きつける何かがなければ、お客様の満足度を高め、集客力を伸ばすことはできない。

委員会のメンバーは「ファミリー客に何を提供するのか」について、議論を深める必要があった。この時大きな手がかりになったのが星野の問いかけだった。

お客様を対象に実施したアンケートの結果を何度も見る中で、星野には⑤気になるデータがあった。「日本のホテル・旅館の魅力はどんな点にあるか」という質問に対して、ファミリー客の回答は「家族サービス」「思い出づくり」が上位だったことである。星野は調査結果に違和感を覚えた、家族サービスという言葉は家族の誰かがサービスする側に回ることを意味する。すると、⑥サービスを担当する人は、リゾートに来てもくつろぐことはできない。星野は委員会のメンバーに対し、自分の疑問を語った。

「ファミリー客の親たちは、リゾナーレに滞在している間、本当にくつろいだ時間、楽しい時間を過ごしていると言えるのだろうか」

メンバーの議論は一気に加速した。ある人は「ファミリーをメーンターゲットにする以上、子供だけでなく、親ももっとくつろげるようにしよう」と提案した。これを受けて他のメンバーが「親たちがくつろぐには具体的にどうしたらいいのだろうか」と話をつなげた。議論は熱を帯び、長時間続いた。メンバーからは次々と新しいサービスのアイデアが出てきた。

だが、議論を聞いていた星野は、話の方向にまたしても違和感を覚えた。

メンバーが提案するサービスはそれぞれ悪くない。しかし、その内容はリゾナーレでそれまで過ごしてきた親子の姿を前提としていた。これでは従来のファミリー向けのサービスの域を出ず、親はくつろぎを得られない。もっと良い方法がないのか。星野は考えるうちに、新たな疑問が浮かんできた。そしてメンバーに二つ目の問いかけをした。「【　　⑦　　】」

星野の問いかけはメンバーにとって、≪　ｃ　≫から≪　ｄ　≫が落ちるものだった。まったく衝撃的な提案だった。メンバーの一人、現在ユニットディレクターをつとめる小山毅志がその時の様子を振り返る。「『親子は常に一緒』という常識にとらわれ、他の誰もが【　　⑧　　】とは考えたことすらなかった」

それまでのリゾナーレにはまったくない発想を前に反発する人は少なくなかった。

星野は結論を急がなかった。そして、自分の提案に対するメンバーの議論を促すために言葉を続けた。

受検番号

平成二十三　中入　国語　［後期］　（その六）　金蘭千里中学校

「わざわざリゾートに来たのに子どもにつきっきりでは、親はものすごく大変ではないか。本当はどうなのだろう。もっと具体的にリゾナーレで過ごすファミリーを思い浮かべていろいろな場面を考えてみよう」

メンバーはファミリーがホテルに到着してから帰るまでを**B シミュレーション**した。浮かび上がったのは子どもとずっと一緒で、子どもを楽しませることに疲れ、自分は楽しめない親の姿だった。

親は到着してフロントでチェックインしてから、食事をする時も、館内のプールなどで泳ぐ時も、常に子供と一緒に過ごしていた。そして、**C チェックアウト**するまで忙殺状態であった。

メンバーの間には「大人（＝親）も楽しめるようにしよう」という共通の認識ができた。最初のうちは「親子は常に一緒にいたほうがいい」と考えていた人も、やがて「【　　⑨　　】」という提案に納得していった。そして「家族の過ごし方について、親子が一緒の時、別々の時、さまざまな形で応えられるようにしよう」という結論に達した。

こうしてリゾナーレのコンセプトが「Y大人のためのファミリーリゾート」に決まった。

（中沢康彦『星野リゾートの事件簿』一部改めたところがある）

（一）**太字部**ア～カのひらがなを漢字に改めなさい。

ア　かいかく　　イ　りっち　　ウ　つと（める）　　エ　しせい　　オ　ゆうい　　カ　どくじ

（二）**太字部**A～Cの本文における意味として最も適切なものを、次のア～エの中からそれぞれ一つ選び記号で答えなさい。

A「リピート客」

ア　よい評判を広めてくれる客　　イ　何度でも訪れると約束してくれる客

ウ　複数回利用してくれる客　　エ　施設のことを大変気に入ってくれる客

B「シミュレーション」

ア　条件を絞った仮想　　イ　自由な想像　　ウ　仮想の現実　　エ　想像力をためすゲーム

C「チェックアウト」

ア　出発　　イ　部屋の施錠　　ウ　退館手続き　　エ　旅行の終了

（三）【　①　】に入る言葉を文中から三字で、【　②　】に入る言葉を文中から四字で抜き出しなさい。

（四）傍線部③「自ら進んで加わった」とあるが、それはなぜか、次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び記号で答えなさい。

ア　新しい経営体になったことで、自分たちの施設が再生されるだろうという見込みが立ち、明るい気分になったから。

イ　コンセプト委員会の仕事は、上司に言われたことだけをするそれまでのやりがいのない仕事とは違い、創造性がある仕事なのではないかと思ったから。

ウ　星野リゾートのコンセプト委員会では、出席する誰もがどんなことでも発言することができる自由な雰囲気があり、それが楽しかったから。

エ　新しい経営者と意見を交わし、自分のことを理解してもらううちに、支配人といった責任ある仕事を任されるようになるのではと期待したから。

（五）《　a　》～《　d　》に入る言葉をそれぞれ三字以内で書きなさい（ひらがなでよい）。

（六）【　④　】に入る言葉として最も適切なものを、次のア～オから一つ選び記号で答えなさい。

ア　どきどき　　イ　くさくさ　　ウ　がつがつ　　エ　いきいき　　オ　きびきび

受検番号

平成二十三　中入　国語　［後期］　（その七）　金蘭千里中学校

（七）傍線部⑤「気になるデータがあった」とあるが、どういう意味で「気になった」のか、次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び記号で答えなさい。

ア　「ホテル・旅館」の魅力についてたずねた質問の答えが「家族サービス」ということになれば、「ホテル・旅館」のサービスそのものではなく、ファミリー客の親たち自身の努力だけが「ホテル・旅館」の魅力の源だということになってしまうという意味で。

イ　本来くつろぐべき場所である「ホテル・旅館」において、自分たちがくつろげないことにも気づかず、子供達の相手ばかりをしている状態に満足しているファミリー客の親たちは、リゾートでの行動基準から外れてしまっているという意味で。

ウ　「家族サービス」「思い出づくり」が「ホテル・旅館」の魅力であると答えてしまうファミリー客の親たちは、リゾートに来てもサービスを受けるばかりで、自ら家族にサービスをほどこす機会がなくなってしまっているという意味で。

エ　「家族サービス」「思い出づくり」といった答えは、「ホテル・旅館の魅力はどんな点か」という問の答えになっておらず、このような答えが多いということは、リゾートに来てもくつろげていないファミリー客の親たちが多いということを示しているのではないかという意味で。

（八）傍線部⑥「サービスを担当する人」とあるが、この場合誰をさすか、次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び記号で答えなさい。

ア　ホテルのスタッフ　　イ　委員会のメンバー　　ウ　連れ回される子供たち　　エ　ファミリー層の親たち

（九）【　⑦　】にはどのような問いかけが入るか、次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び記号で答えなさい。

ア　ファミリーで旅行に来た場合、親は滞在中子供とずっと一緒に過ごして楽しいものなのか。

イ　ファミリーで旅行に来たからこそ、親は子供と一緒に滞在したいと考えるものではないか。

ウ　ファミリーで旅行に来るということは、親が子と一緒に過ごしたいということの現れではないか。

エ　ファミリーで旅行に来て、親子が一緒にいなければならないという風潮はしかたないのではないか。

（十）【　⑧　】【　⑨　】には同じ表現が入るが、それを自分で考えて十五字以内で書きなさい。

（十一）二重傍線部X「星野リゾートは全国でさまざまなホテルや旅館の再生を手がけている」とあるが、本文からうかがえる「星野リゾート」による「ホテルや旅館の再生」の手法の特徴として当てはまるものを、次のア～コの中から五つ選び記号で答えなさい。

ア　新しいコンセプトを確立することを重視し、破綻を招いた旧経営陣のやり方のすべてを否定する。

イ　再建の方向性を決めるにあたって社長は議論に加わるが、自分の考えを押しつけるようなことはしない。

ウ　基本的には従業員に議論・決定させるが、議論の材料となるデータや着眼点は社長が提供する。

エ　調査会社の詳細なデータを重視し、スタッフの感情や思いに左右されぬよう、社長自ら方向性を修正する。

オ　再建への熱意を持ったスタッフを年功序列に関係なく先頭に立たせ、再建にあたらせる。

カ　再建に向けたコンセプトの具体的内容を社長自ら示すことで、責任を持って再建にあたる。

キ　スタッフとの会議において、社長は時にあえてスタッフとは反対の意見を述べてみせ、反応を探ったりもする。

ク　上意下達で規律がきちんとしたピラミッド型の経営組織で、強力に経営再建を進める。

ケ　これまでのホテル業界の常識や再建するホテルでの常識にとらわれず、自由な発想で再建に取り組む。

コ　スタッフ自らが「自分たちはこうなりたい」と思っている方向に議論が向くよう、社長は後押しをする。

（十二）二重傍線部Y「大人のためのファミリーリゾート」というコンセプトには「リゾナーレ」の「コンセプト委員会」メンバーの客に対するどのような思いがこめられているか、「リゾナーレで」という言葉を入れ、四十字以内で書きなさい（句読点を含む）。

受検番号

平成二十二年　中入　国語　［後期］　（その八）　金蘭千里中学校

①

（一）	ア	（引っ込み）	イ	（やかに）	ウ	（層雲）
	エ		オ	（し）		
（二）	A		B		（三）	
（四）						
（五）						
（六）						
（七）		（八）			（九）		（十）	

②

（一）	ア		イ		ウ	（ある）
	エ		オ		カ	
（二）	A		B		C	
（三）	①		②		（四）	
（五）	a		b		c		d	
（六）		（七）		（八）		（九）	
（十）						
（十一）						
（十二）						

得点	
受検番号	

平成二十三　中入　国語　［後期］　（その九）　金蘭千里中学校

【解答】

①

（一）ア（引っ込み）思案　イ　軽（やかに）　ウ（屠畜）現場　エ　出荷　オ　明言（し）　⑤

（二）Ａイ　Ｂウ　⑧

（三）友達　④

（四）牛や豚などをこれ以上殺させたくないから。（２０）　⑧

殺してほしくないから。（２１）

（五）エ　⑥

（六）自分たちのために殺された、牛や豚の命をむだにしないため。（２８）　⑥

（七）オ　⑥

（八）イ・オ　⑤

（九）大学は勉強　④

（十）イ　⑥

②

（一）ア　改革　イ　立地　ウ　務（める）　エ　姿勢　オ　優位　カ　独自　⑥

（二）Ａウ　Ｂア　Ｃウ　⑥

（三）①　お客様　②サービス【過ごし方】　⑥

（四）イ　④

（五）ａ　せき【堰】　ｂ　かじ【舵】　ｃ　め【目】　ｄ　うろこ【鱗】　③

（六）エ　②

（七）エ　④

（八）エ　②

（九）ア　④

（十）親子は時には別々でいるのもいい　④

（十一）イ　ウ　オ　ケ　コ　⑩

（十二）ファミリー客の子どもだけでなく親にもリゾナーレで楽しんでほしいというような思い。　⑨